

2026（令和8）年度 比治山大学入学試験「出題意図」

一般選抜 [数学]

1 出題の意図

昨年度の入試から「生活の一部を題材とした読解力や活用力を見る問題」を導入しています。また、共通テスト同様「具体的な実社会での設定に対して、数学を適用して解釈する問題」や「複数の登場人物の会話から、その人物の考えを踏まえて解答する問題」などが出題されています。

2026年度入学生向けの入試ではA日程・B日程において、出題範囲は数学Ⅰ・A、試験時間は60分です。解答形式は記述式で、出題数は大問が6題です。大問Ⅰ～Ⅴは、それぞれ一つの分野について、4～8個の問いで構成されています。大問Ⅵは、数学用語・概念を説明する文章記述の問題です。出題形式や問題のボリュームなどは前年とほとんど変わっていません。いくつかの問題では、選択式の設問もみられます。

A日程・B日程で、大問Ⅰは「場合の数・確率」から問題が出題されています。大問Ⅱは「データの分析」から問題が出題されています。大問Ⅲは「2次関数」から問題が出題されています。大問Ⅳは「整数の性質」から問題が出題されています。大問Ⅴは「図形と計量」から問題が出題されています。大問Ⅵは「集合と命題」から問題が出されています。出題分野・傾向も前年とほぼ同じですが、出題範囲である数学Ⅰ・Aから出来るだけ偏りがないように出題されています。難問や特殊な解法を必要とする出題はなく、基本的・典型的問題を中心として、教科書の内容を理解し、基本的公式が使いこなせるかを確認するための問題で構成されています。日頃の授業への取り組み姿勢や演習量が点数に反映されやすい問題です。

2 受験対策

(1) 数学Ⅰ・Aを偏りなく学習し、基礎学力の充実を行いましょう

毎年、全日程で数学Ⅰ・Aの各分野からまんべんなく出題されています。したがって、苦手分野を作らないように、常日頃から特定の分野だけに偏らない学習が望まれます。学校の授業を大切にし、教科書・参考書の例題や練習問題を通して授業内容を十分に理解しましょう。その上で、教科書の節末問題や基本問題集での基礎学力の定着と向上に努めましょう。本学は数学用語の意味・解説が記述問題として出題されています。教科書の問題を解くだけでなく、用語解説までよく読み、問題演習で確認するなどの習慣をつけましょう。

(2) 基本的・典型的な問題を確実に解けるようになるよう

本学の問題は基礎学力の確認を行うべく、基本的・典型的な問題を中心に問題が出題されています。しかし、公式を丸暗記しただけで解けるような問題ではありません。教科書や参考書の例題を丁寧に解き、各分野の典型的な問題を通して基礎学力の確認を行って下さい。間違ったり、理解が不十分であったりする箇所は、しっかりと見直し、地盤を固めることが大切です。

(3) 過去問題を必ず解いておこう

今年度の入試では、C日程は昨年度と同じ傾向のものを問題を出題し、A日程・B日程では少し新しい傾向のものを問題を出題しています。2027年度入学生向けの入試では、今年度のA日程・B日程の入試傾向を基に出題していく予定です。難易度や出題分野、解答形式などはどれも似通っていますので、自分の受験する日程の過去問題だけではなく、それ以外の日程の過去問題も、本番と同じように60分間で解いてみましょう。出題形式、難易度などが実感でき、適切な時間配分を見極めることができます。